



参画だより

NO. 26
2006. 2. 24

弘前市民参画センター

平成17年度第2回男女共同参画推進セミナー

それぞれの個性を活かせる職場環境を！

日産自動車(株)では、社員の性別・国籍・文化、それぞれの個性・価値観などの多様性を理解し、活用するために、職場環境を整えることを目的とした新部門を設立。そこでダイバーシティ(多様性)を推進しています。



「企業はダイバーシティの推進をしましょう」と話す吉丸さん

平成17年12月17日、弘前市民参画センターにおいて、今年度第2回男女共同参画推進セミナー「多様性を活かして職場をいきいきさせるために」が開催されました。

講師は、日産自動車株式会社ダイバーシティディベロップメントオフィスの室長の吉丸由紀子さん。この部門は、社員の性別・国籍・文化の違いを理解し、それぞれの個性を活用でき

る職場環境を整えることを目的として、平成16年に新設されました。

吉丸さんは、危機的状況にあった日産が、ゴーン社長の改革によってV字回復をなしとげた過程をグラフで示し、その成長を持続するためのキーワードが「ダイバーシティの推進」であると説明。ダイバーシティとは、日本語でいうと「多様性」です。日産が目指すダイバーシティは、性別・国籍・年齢などの違いからいろいろな価値観をもつ人の意見がぶつかりあい、影響しあうことで相乗効果を生み出すこと。その摩擦がより高い価値を創造する、というのがゴーン社長の考えです。

吉丸さんは、日産が経営戦略としてダイバーシティを推進する大きな理由のひとつとして、顧客のニーズが多様化してきたことを挙げました。近年、女性が自動車購入時の意思決定に大きくかわるようになり、女性を意識した車づくりが求められています。しかし、日産の女性社員の割合は6%に

女性の能力活用を推進することで業績UP!



カルロス・ゴーン社長の元、日産自動車がおこなった「職場改革」に聞き入る来場者

顧客の要望に応えられない、この経営陣の危機意識から、この一年、市場調査や製造部門の担当に女性を登用し、女性や家族にとつて使いやすい自動車の開発を進めてきました。その成果が徐々に表れてきたところだ」と現在の日産の状況を説明したあと、具体的なオフィスの取り組みについて紹介しました。

「ダイバーシティには性別だけでなく、国籍、年齢などさまざまなものがありますが、現在、日産が重視しているのは女性です。女性の能力をさらに活用していくための取り組みとして、女性対象の研修の強化や、個人面談などを通してひとりひとりのキャリアを一緒に考えていく、という働きかけを行っています。また、男女問わず仕事と家庭の両立を容易に

するために、育児支援が急務と考えています。育児休業期間の延長、事業所内託児所の設置、短時間勤務制度など、社員の要望に合わせた支援策の整備を進め、女性にとつても男性にとつても働きやすい職場環境を目指しています。こうしたさまざまな取り組みを活かすためには、社内での理解を得ていくことも必要。フォーラムやパネルディスカッションを開催して、多様性の推進について考える場を設けたり、メールマガジンで情報発信をしたりと、社員に対し積極的に啓発を行っています。

日産が目指すのは、単に女性を増やすことではありません。経済産業省の調査で、ある割合までは女性が多い企業ほど利益率が高い、という結果も出ています。しかし女性が100%になればもっと業績が上がるのか、という決断はそうではない。数の問題ではなく、女性が活躍できる風土、女性を受け入れていく、という風土こそが企業の業績に影響を与えているのではないかと、というのが経済産業省のまとめであり、私たちも同意見です。女性の能力活用を進めることを通して、個々の違いを活かせるような組織になっていきたい、というのが日産の目指す姿です。」

セミナー後半では、かけはし役を務めた弘前市民会館長の田中弘子さんや参加者から出された質問に吉丸さんが丁寧な回答し、参加者は多様性推進の理解を深めていました。

「ジエンダーってなあに？」

弘前市男女共同参画推進活動講座 受講生 三浦 幸子



男女共同参画推進活動講座の発表会
寸劇について発表する三浦さん



講師として企画しました。今回は三浦さんに寸劇のことや、普段の活動についてお聞きしました。

寸劇には川柳が使われていますが、川柳には以前から親しんでいますか？

「今回初めてつくりました。今まではもっぱら友達が詠んだのを聞くだけで。講座で男女共同参画のための企画をする、ということその人のことを思い出し、普段自分が感じていることをそのまま川柳にぶつけてみました」

ジエンダーについては以前からご存知でしたか？

「今回の講座に参加して初めて知りました。今まで自分が疑問に思っていたことがこういう言葉で説明できるんだ、ということを知り、目の前がぱっと開けたような気がしました」

劇では前時代的な夫の姿が描かれていましたが、モデルはいるのでしょうか？

「自分の夫や父親です。単語でかしゃべらないとか、話しかけてもろくに返事をしないとか。でも夫はすこしずつ変わってきたかな。夫に『ビール！』って言われるたびに、『ビールがなに？』そのあとなんて言うの？』と言い返したんです。そのうち自分で黙って取りに行くようになりましたよ。男の人は、『わざわざ言わなくてもわかるだろう』と勝手に決めつけている節がありますよね。当然、長い間一緒にいればわかってくることもあるけれど、それでもきちんと言葉にしてほしい、と私は思います。気持ちと言葉で表す努力をしてほしいんですよ。『以心伝心それって言葉を奪うもの？』という川柳にはそんな思いがこもっています」



交流まつりで行われた寸劇
会場は笑いの渦に

酒!



劇では妻役と娘役の二役を見事に演じていらっしゃいました。演劇に関わる活動は何かしているのでしょうか。

「『人形劇団つがる』というグループで、津軽弁による人形劇をしています。各地の公民館や幼稚園・保育園で公演を行うほか、県の人形劇まつりや弘前市市民文化祭などにも参加しています。今回の川柳劇で夫役をしてくれた男性は、この人形劇での仲間なんです。今年には劇団創立40周年で、記念公演もあるのでぜひお越しください」

そのほか、ねぶた、マラソン、町内会など、幅広く活動の場を持っているパワフルな三浦さん。ご自身も好きだという、「楽しみながらがんばる」という言葉がとても似合う方でした。講座へ出席して男女共同参画という新たな視点を得たことで、今後ますます活躍が期待できそうです。

三浦作「ジエンダー川柳」を紹介
ビール酒 単語を妻をこき使う
迷い箸 食ふに味が分かるのが
頼まれて返事しないがやる夫
飯支度 それって女の 仕事だの？
勉強は 男も女も 一生です
以心伝心 それって言葉を 奪うもの？
なぜ夫は 妻を家に 置きたがる
男親 娘バブーで 大変身
妻元氣 一れこそ家が 安泰だ

昨年10月29日、市民参画センターで開催された交流まつり。そのなかで、家庭のなかの性別役割分業意識をテーマにした川柳を盛り込んだ寸劇「ジエンダーってなあに？」が披露され、観客から大きな喝采を浴びました。

劇は、「妻は家事だけしていればいい」「結婚して家庭に入る娘には学問は不要」という考えを持った夫が、娘の説得によって徐々に妻の再就職を応援する気になっていく様子をコミカルに描いたもので、脚本・演出・主演を務めたのは、三浦幸子さん。今年度の弘前市主催、NPO法人青森県男女共同参画研究所企画・運営の「弘前市男女共同参画推進活動講座」受

さんかくネットつどいの広場

色々なイベントを楽しむ参加者たち



コラムニストの
山田スイッチさん

12月12日、弘前市民参画センターで、「さんかくネットつどいの広場パート2」が開かれました。これは就学前の子どもを持つ家族に遊び場を提供し、楽



前回の経験や要望をもとに、プログラムの内容を今回は一新。毎週日曜日に陸奥新報で育児日記を連載中のコラムニスト、山田スイッチさんを招いて、参加者と育児について語り合う「おしゃべりサロン」が開かれました。山田さんは連載記事の読者にはおなじみのご長男、通称「師匠」と一緒に登場、訪れた人たちの注目を浴びていました。

話題が夜泣きのことになると、車座になった参加者がひとりずつ苦労話や対処法を紹介。「好きなビデオをみせる」「明け方をつけて一度起こす」など、それぞれの工夫が披露され、お互いの育児法を参考にしていました。

「おしゃべりサロン」の後半では、平川市在住の舞踏家、雪雄子さんが、心と体をリラックサさせるストレッチ法を披露。山田スイッチさん親子はじめ参加者が、音楽に合わせてゆったり動いて、楽しみながらできるストレッチを体験しました。

外遊びの回数が減る冬季の開催というところもあり、親子でできる運動遊びを増やしたのも今回の特色のひとつです。スポーツを通してさまざまな地域活動を弘前の協力を得て、子どもも年齢に合わせた遊びが楽しめるコーナーを設置。廊下を利用したカーリングや、新聞紙を好きなように破く遊びが人気を集めていました。

また、スポネット弘前の鹿内葵さんが、腕や足の筋力アップにも役立つような運動遊びを指導しました。子どもも筋力がどとあつて、参加した保護者たちも子どもへの動きに一喜一憂。鹿内さんが「個人差がありますから、今できないからといって心配する必要はありませんよ」と声をかける場面もみられました。

この日は約150人が来場し、初冬のひとときをおしゃべりや運動遊びで楽しく過ごしました。



スポネット弘前の
鹿内さん

男女共同参画基本計画（第2次）閣議決定

12月27日政府は、男女共同参画社会の実現に向けて、平成18年から5年間、政府が取り組むべき具体的施策をまとめた「男女共同参画基本計画（第2次）」（以下、2次基本計画）を決定しました。これまでの11の分野に、「新たな取り組みを必要とする分野」が加わり、科学

技術・防災・地域おこし・まちづくり、環境の問題などを提起しています。2次基本計画の構成は、第1部「基本的な考え方と重点項目」、第2部「12分野について、施策の目標、基本的方向（2020年まで）、具体策（2010年まで）」、第3部「推進のための体制整備・強化」です。

重点事項

政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
女性のチャレンジ（再就職・起業等）支援
雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
男女の職業生活と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し
新たな分野（科学技術、防災・災害復興等）への取組

男女の性差に応じた的確な医療の推進
男女共同参画社会が男性にもたらす意義の啓発
男女平等を推進する教育・学習の充実
女性に対するあらゆる暴力の根絶
農山漁村、メディア等を始めあらゆる分野において男女共同参画の視点に立って関連施策を立案・実施し、男女共同参画社会の実現を目指す

(弘前市民参画センター利用団体紹介)

(郷土史サークルの老舗「陸奥史談会」)

「聴く学習から、語る学習」をモットーに

戦前から「津軽のおベサマ」で津軽一円の知識を独占した「陸奥史談会」も創立以来九十有余年、戦後は類似学会や研究会に押されながらも、ここ弘前市民参画センターで月一回の例会をささやかに開催しているのが現状です。

会の発足は明治ご一新から半世紀、大正初年、日本国家の近代化の過程で、体制側の偏見で評価されない維新功労者への顕彰が旧津軽藩にも及び、この事業に参画した旧士族の知識人らが後年、機関誌『陸奥史談』や幻の著『陸奥古碑集』などを刊行させました。かかる由緒ある集団も会員の高齢化で、後進の学会や行政・メディアから疎んぜられ、その上市民の認識も低く退潮気味でした。

そんな社会的弱者の老齢会員らを回帰させたのが、街なかへの当センター開設と百円バス「桜大通り」停の運行でした。その便も昨今では経路変更とかで停留所も廃止、男女共同参画ならぬ老人参画も是認頂ければ、最寄りの「重文・青銀記念館」も近く、当センターにも便利な停留所の復活を市民感覚で要望したいものですが.....。

写真は東奥日報社提供



編集後記

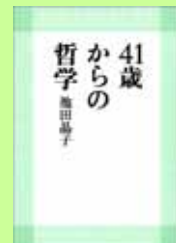
この冬も、雪、雪、雪、雪。見ているだけだと、雪は今でも大好き。きれいで汚いものもすべて、白く覆いつくす。昨日も午前中いっぱい屋根雪をかたつけた。雪は、私に筋力と忍耐力をつけてくれる。「あゝ。雪とは何とすばらしき物」でも思わないと、どんだばなあ、このゆき。まんだ降るだべな。このすがまも、おどさねばまねなるばば！テレビ見てねんで、なもやながあこのもと言ってしまうそうである。いも



本の紹介

著書名

『41歳からの哲学』



『知る』と『分かる』との
違いを真剣に
考えてみよう

著者 池田晶子
発行 新潮社

「41歳からの哲学」という表題に思わず目がいった。そして、読み始めてみる。

著者は専門用語を使わずに、哲学するとはどういうことかを、日常の言葉で語ることに定評があるという。

2003年5月1日号から約1年間「死に方上手」というタイトルで「週刊新潮」に連載したものを集め、内容ごとに括って編集された本である。

最初のページから気合を入れて読む必要は無く、まずは興味のある見出しのところから読んでいける。

「平和な時でも人は死ぬ」「いったい人は、何のために何をしているのか」「考えることに終わりはない」「なぜ人を殺してはいけないのか」「信じなくても救われる」など各章のタイトルにも目をみはる。

一貫して「考える」ということに重きを置く。読み進むうちに、人間の観念や思い込みも滑稽に思えてくる。本当に必要なことを省略して生きてきたような気持ちになって落ち着かなくなる。

特に印象に残ったのが、「知る」ということと「分かる」ということの違いについてである。たくさんの情報を知っていたところで、それがどういうことなのか分かっているわけではない。それを分かるためには自ら考える以外にないという。己の頭の中に情報をいっぱい詰め込んで自ら考えているつもり知識人も大勢いるが、あれは、正確には情報人と呼ぶべきだろうと言い切る。なるほど、知ったことで分かった気になっていることがたくさんあるような気がしてくる。

情報を知るという経験は人間を変えないが、「分かる」という経験は人間を変えるという。「分かる」と人間は賢くなるのだそうだ。

「ちょっときついな」とか「他人事みたいに」など思いながら、すっかり夢中になってしまった。自分がいかに物事を考えない生活をしてきたか思い知らされた。それに気づいたただけでも大きな収穫ではないだろうか。観念を追いやり、考えてみることも必要だろう。

by Komori

弘前市民参画センター 編集 メディア部会

〒036-8355

弘前市元寺町1-13

Tel 0172-31-2500 Fax 0172-36-1822

開館時間 9:00~22:00

休館日 12月28日~1月3日

新弘前市となりましても変わりなく、

弘前市民参画センター

をよろしくお願いします

当センターは合併後も、新弘前市の男女共同参画推進の拠点として、市民団体の活動の場を提供する施設としての使命を果たせるよう努力してまいりますので、今まで以上に多くの市民の皆様にご利用いただきたいと思います。